

# 男性ばかり被発原

# 多発性骨髄腫、労災に

## 福島の 労基署 白血病以外で初認定

原発内の配管工事やその監督で被ばくし、骨髄がんの一種の多発性骨髄腫Ⅱ3面に「ことばⅡ」になったとして労災保険支給を請求していた元フロント建設会社社員、長尾光明さん(78)Ⅱ大阪市西淀川区Ⅱに対し、富岡労働基準監督署(福島県富

岡町)が労災認定したことが19日分かった。原発労災認定基準では多発性骨髄腫は例示されておらず、白血病以外の認定は初めて。認定枠拡大の先例となる可能性がある。

長尾さんは77、82年の4年3カ月間に、福島第1原発(福島県)、新型転換炉「ふげん」(福井県)、浜岡原発(静岡県)で作業に従事し、計70リシ被ばくした。年間の被ばく量は電力会社の社員の平均の3〜8倍だった。

厚生労働省の労災認定基準では、白血病の場合、「5リシ×従事年数」以上の被ばくをし、被ばく開始から1年以上たつて発病との条件がある。この基準に照らすと、長尾さんは約3倍の量の被ばくをしていたが、多発性骨髄腫の例示がなく、富

岡労働基準は本省に意見を求めた。厚生労働省の専門家検討会が、作業内容など

や被ばく量の評価などから「被ばくと病気の因果関係あり」との判断を出したという。原発作業では白血病で過去5人が労災認定されている。

原爆症に詳しい村田三郎・阪南中央病院内科部長の話、白血病でしか労災認定されなかった原発労働者被ばくで、多発性骨髄腫以外にも、悪性リンパ腫など白血病に関連する疾患の認定の道を開く可能性のある判断だ。

## 貧血、けん怠、そして突然骨折

### 多発性骨髄腫

白血病に類似した骨髄のがん。免疫に関与する細胞が分化の最終段階で腫瘍(しゅよ)化し、骨髄内に多発する。慢性のまま経過するケースから、腎不全によつて急死する例まであり、経過が多彩とされる。初期症状は貧血による全身けん怠感と、骨の変化による痛みなどがある。最も特徴的なのは突

然の骨折だ。00年に明らかにされた米国の原子力関連施設の労働者の調査では、累積被ばく量が50リシを超える人の多発性骨髄腫による死亡率は、同10リシ以下の人に比べ約3・5倍高い。

広島、長崎の被爆者での発

生率が高い。昨年5月までの10年間で17人が原爆症として認定された。労災認定基準に多発性骨髄腫の例示はなく、判断の際は労働基準監督署が厚生労働省に意見を聞くこと

になっている。(25面参照)



【大島秀利、東海林智】